

# 門松ものがたり vol.02



ベテランから若手へ、受け継がれる職人の技

## 門松づくりの原点 職人の手仕事

門松づくりは、竹を組み立てる前の「下準備」に最も時間と手間をかけています。特に、土台となる樽にワラコモを巻く作業は、一つひとつ手作業で行うため非常に手間がかかり、毎年8月頃から順次制作を始めています。見た目の美しさはもちろん、長期間きれいな状態で飾っていただけるよう、細かな部分まで丁寧に仕上げています。こうした下準備をしっかりと行うことで、完成後の門松の安定感や品格につながっています。

## 2、土台づくり・竹の加工



土台の樽には、昔ながらの風格と趣を大切にしたいという思いから、ワラコモを丁寧に巻き、伝統的な佇まいを表現しています。運搬時にも形が崩れないよう、力を込めてしっかりと巻き上げています。



太さを選別した竹を、サイズごとの長さに切りそろえています。竹の表面に傷をつけないよう丁寧に作業を行いながら、状態の良い竹を見極める目利きも欠かせません。

## 門松の『顔』をつくる技

竹を斜めに切り上げる工程を斜切りといいます。職人はこの斜めの切り口を「顔」と呼びます。桃原農園の門松は、顔を長く仕上げるのが特徴で、その美しい斜めの顔は一番の特徴でもあります。短くすれば使用する竹を抑えることもできますが、美しさにこだわり、あえて長い顔で切り続けています。一本一本異なる竹のゆがみを見極めながら美しく長い顔を作るには熟練の技が必要です。



次号へつづく。次号掲載予定日：6月5日